

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果

1. 調査の概要

- 【実施日】 令和4年4月19日（火）
【対象学年】 中学3年生
【調査内容】 ①教科に関する調査（国語・数学・理科）
②質問紙調査

2. 学力調査（教科に関する調査）結果の概要

各教科の結果から～過去の結果や全国平均との比較において～

3教科とも無回答率は昨年度よりも改善され、
「諦めずに問題に取り組もうという意識」が見られました。

※以下、○は成果と見られるもの、◆は課題と見られるものを例示しています。

① 国語

〈学力調査より〉

漢字の読み書きや基礎的な知識は改善がみられます。しかし、語彙力や文章の構成に対する力・文章のたまかな内容理解の力に課題が残っています。

- 文脈に即して漢字を正しく書くことができる（2問）【知識及び技能】
正答率〔河原城 83.6%、府 79.7%、国 82.1%〕〔河原城 81.4%、府 80.3%、国 80.5%〕
- 行書の特徴を理解することができる【知識及び技能】
正答率〔河原城 37.9%、府 37.0%、国 39.4%〕
- ◆自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができる【話すこと・聞くこと】
正答率〔河原城 34.3%、府 46.0%、国 51.8%〕

〈今後の授業で〉

- ①新聞の切り抜き等を活用し、文章理解や内容から自分の考えを書く機会を定期的に設ける。
- ②多くの文章に触れさせ、「文字を読む力」と「語彙力」の育成。
- ③授業の中で対話（議論）する時間を定期的に設け、書くだけでなく、自分の言葉で発信する場・機会を設ける。

② 数学

〈学力調査より〉

「データの活用」の領域においては改善がみられます。しかし、ある条件の下で成り立つ図形の性質を見だし、それが成り立つ理由を数学的に説明できるようになる力に課題が残っています。

○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している【データの活用】

正答率〔河原城 77.9%、府 81.5%、国 83.3%〕

○データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる

【データの活用】

正答率〔河原城 46.4%、府 43.7%、国 44.0%〕

◆筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる【図形】

正答率〔河原城 3.6%、府 13.4%、国 12.5%〕

〈今後の授業で〉

- ①基本的計算の反復練習も行いながら、数学的用語を使えるように知識分野の復習も随時行う。
- ②学習から得た知識を活用して、日常生活や社会の事象を数理的にとらえる問題に取り組む。
- ③結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考えたりする活動を取り入れる。

③ 理科

〈学力調査より〉

「『地球』を柱とする領域」および選択式形式の問題においては改善がみられます。しかし、「『エネルギー』を柱とする領域」および記述式形式の問題においては課題が残っています。

○観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる【『地球』を柱とする領域】

正答率〔河原城 48.6%、府 52.4%、国 54.2%〕

○上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断することができる【『地球』を柱とする領域】

正答率〔河原城 33.6%、府 27.2%、国 28.5%〕

◆考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる【『エネルギー』を柱とする領域・記述式】

正答率〔河原城 23.6%、府 37.5%、国 43.3%〕

〈今後の授業で〉

- ①基礎問題から応用問題まで幅広く取り扱う。
- ②授業の中で学んだ知識について、文章でまとめられるように促したものを活用する。
- ③学習定着のために復習、家庭学習の徹底。また、その環境づくりのために小テストや学びポケットなどの活用を行う。

3. 学習状況調査（勉強・生活等に関する調査）結果の概要

質問紙調査から～全国・大阪府平均との比較において～

河原城中学校の子どもたちは…

(1)将来の夢や目標を持っていますか 〔肯定の割合が高い〕		
河原城	大阪府	全国
68.8	64.5	67.3

(2)人が困っているときは、進んで助けて いますか〔肯定の割合が高い〕		
河原城	大阪府	全国
90.6	86.6	88.4

(3)いじめは、どんな理由があってもいけ ないことだと思いますか〔肯定の割合が高い〕		
河原城	大阪府	全国
82.8	81.6	82.6

(4)人の役に立つ人間になりたいと 思いますか〔肯定の割合が高い〕		
河原城	大阪府	全国
96.9	94.3	95.0

(5)学校に行くのは楽しいと思いますか 〔肯定の割合が高い〕		
河原城	大阪府	全国
87.5	80.7	82.9

(6)友達と協力するのは楽しいと思いますか 〔肯定の割合が高い〕		
河原城	大阪府	全国
96.9	92.5	93.7

(7)家で自分で計画を立てて勉強をして いますか〔肯定の割合が高い〕		
河原城	大阪府	全国
63.3	54.5	58.5

(8)学習した内容について、分かった点や、よく わからなかった点を見直し、次の学習につなげ ることができていますか〔肯定の割合が高い〕		
河原城	大阪府	全国
78.9	72.7	74.7

(9)普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時 間、テレビゲーム（コンピュータ、携帯型、スマホゲームを含 む）をしますか〔3時間以上の割合が高い〕		
河原城	大阪府	全国
54.7	37.7	29.8

(10)普段（月～金）、1日当たりどれくらいの 時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画 視聴などをしますか〔3時間以上の割合が高い〕		
河原城	大阪府	全国
53.1	36.9	29.5

4. 河原城中学校の学習状況と教科正答率との関連

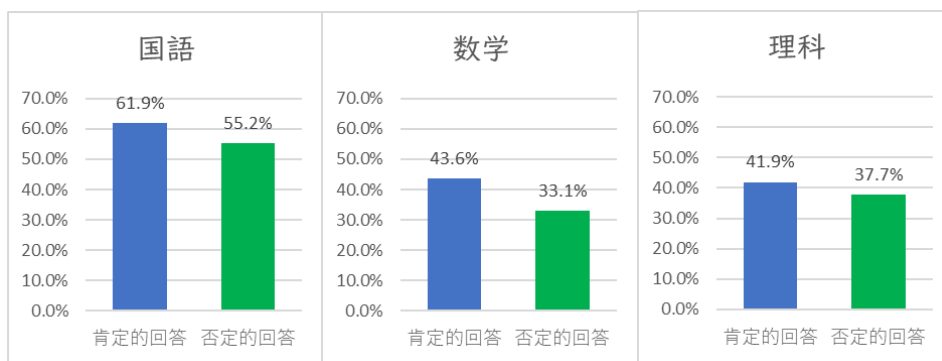
～生徒質問紙と教科正答率のクロス集計からみた傾向～

※こちらのデータ(%)は、そう答えたそれぞれの生徒群の結果(国語・数学・理科の正答率)を表しています。「肯定的回答」と「否定的回答」の合計が100%になるものではありません。

【朝食】

(1) 朝食を毎日食べている人ほど、正答率が高い傾向にあります。

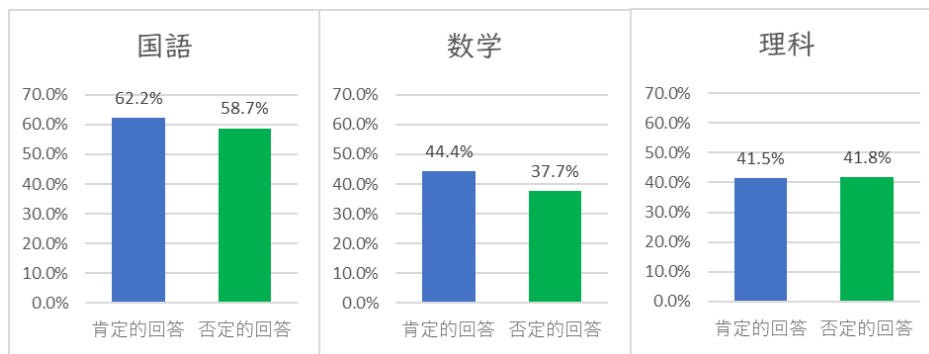
⇒朝食を毎日食べていますか？



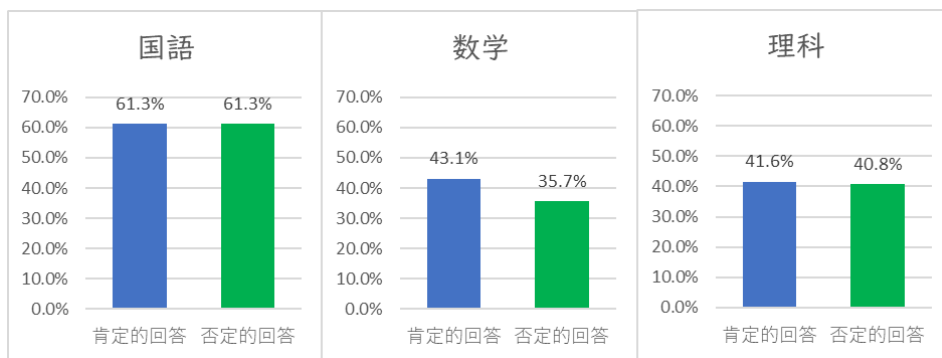
【就寝と起床の時間】

(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ている人、起きている人ほど正答率が高い傾向にあります。

⇒毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか？



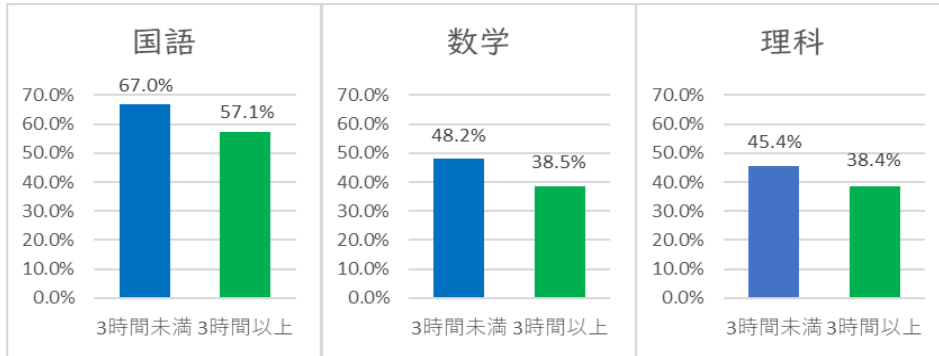
⇒毎日、同じくらいの時刻に起きていますか？



【ゲーム時間】

(3)平日、携帯電話やスマートフォンで SNS・動画視聴をする時間が少ない人ほど、正答率が高い傾向にあります。

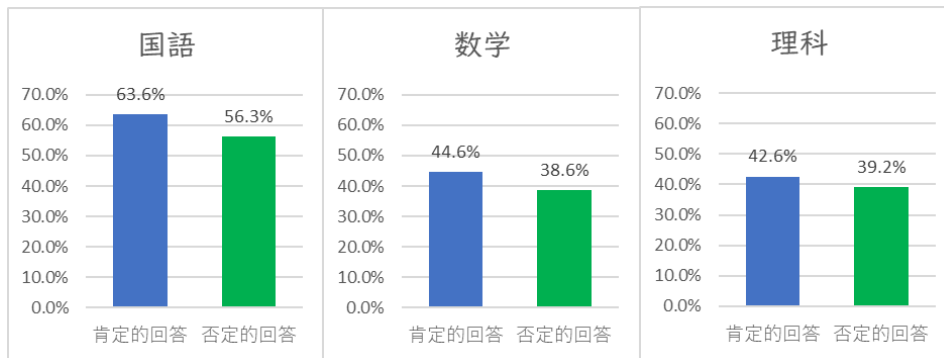
⇒普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか？（携帯電話やスマホを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）



【夢や目標】

(4)将来の夢や目標を持っている人ほど、正答率が高い傾向にあります。

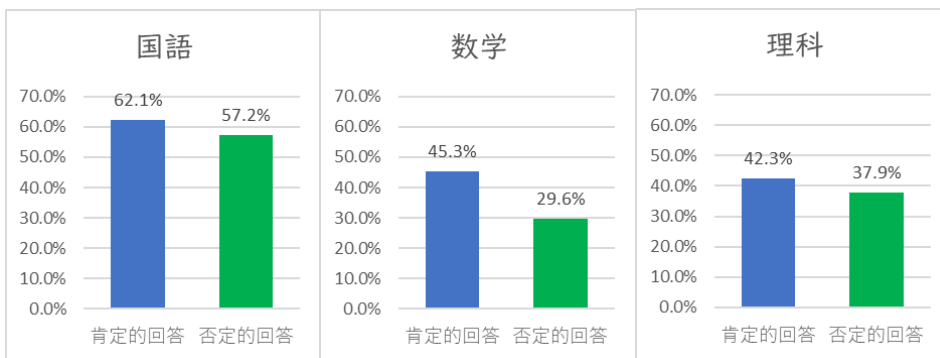
⇒将来の夢や目標を持っていますか？



【多様性を受け入れるところ】

(5)自分と違う考えを受け入れることのできる傾向の人ほど、正答率が高い傾向にあります。

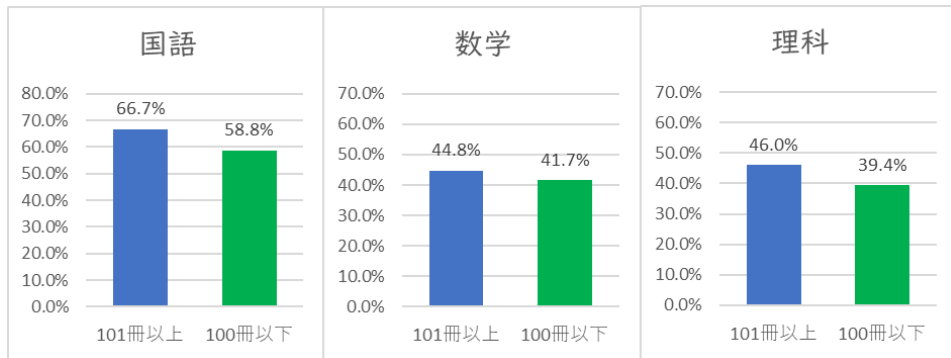
⇒自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか？



【蔵書数・読書】

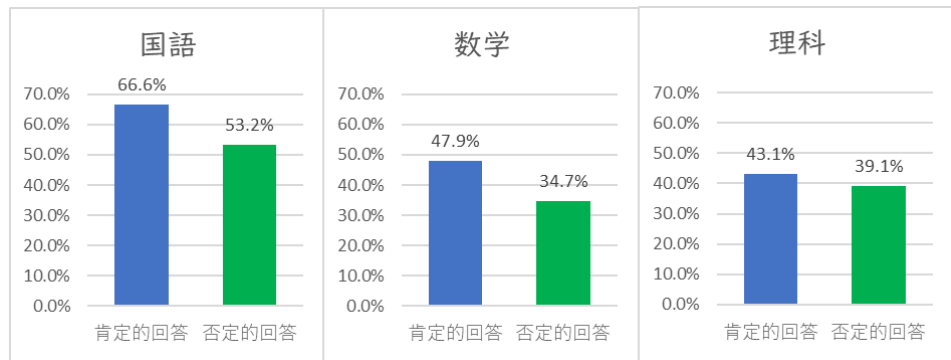
(6)家庭に本が多くあると答えた人ほど、正答率が高い傾向にあります

⇒あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか？（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）



(7)読書が好きと答えた人ほど、正答率が高い傾向にあります

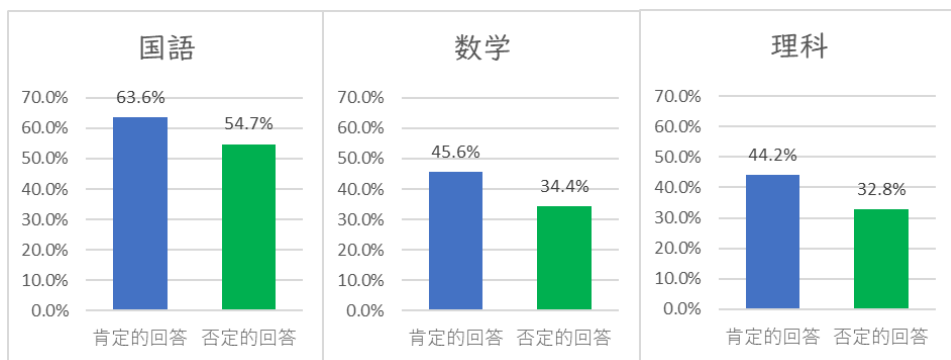
⇒読書は好きですか？



【話し合い活動】

(8)授業や学級活動で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる人ほど、正答率が高い傾向にあります

⇒学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか？



5. まとめ ～保護者のみなさまへ～

【学力調査（教科に関する調査）について】

概要にもありますように、3教科とも、「無回答率」は改善されており、諦めずに問題に取り組もうという意識が見られました。

しかし、「正答率」の改善には繋がっておらず、基礎学力および道筋を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する力において課題がみられました。

今後とも、継続して基礎学力および説明する力について、粘り強く反復学習等で指導していくとともに、教員の授業力の向上に向けて、学校全体で取り組んでまいります。

【学習状況調査（勉強・生活等に関する調査）について】

質問紙調査結果から、(1)「将来の夢や目標をもっている」(2)「人が困っているときは、進んで助けている」(3)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」といった項目については、大阪府、全国平均を上回っていることから、河中の子どもたちの優しさや、目標をもつ意識の高さがうかがえます。何より(5)「学校に行くのは楽しいと思う」の項目では大阪府、全国を大きく上回り、大変うれしく思っております。ここ数年、生徒指導の大きな柱として位置づけてきた『心の教育』が結果として表れていることを実感しております。

今後とも、私たち教員は、子どもたちの良い部分を伸ばし、課題を克服すべく、今以上に充実した教育活動を心がけてまいります。

【学習状況と教科正答率との関連について】

クロス集計からみえた傾向からも、「早寝、早起き、朝ご飯」そして、「携帯電話における家庭でのルールづくり」など、各ご家庭にお願いする部分もあることから、今後も学校は、保護者の皆さまと“一緒に”子どもの成長を見守っていかれたらと考えます。

以上をもって、令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果報告とさせていただきます。
今後とも連携方よろしく願いいたします。

校長 笹井 貴治